



香川県知事
浜田 恵造

だれもが安心して暮らせる社会の 実現を目指して

香川県の外国人登録者数は、平成23年12月末現在で8,315人となり、10年間で、およそ25パーセント増加しています。ヒト・モノ・カネがグローバルに移動する現代にあっては、今後も外国人住民が増えていくことが予想されます。さらに今年は、現代アートの祭典である瀬戸内国際芸術祭2013を開催していることもあり、海外からの観光客も大勢来県されていますので、在県外国人住民の方々はもちろんのこと、海外からの観光客にとっても、安心して共に生活や活動ができる社会を築いていくことが、重要な課題となっています。

本年3月には、内閣府から、南海トラフによる巨大地震の被害想定が公表されました。大規模な災害が発生した際には、正確な情報をいかに早く得られるかどうかが生死を分けることになりかねません。外国人の方は、言葉や生活環境に不慣れな場合が多く、また、出身国によっては地震そのものを経験したことがないことなどから、防災についての基本的な知識が不足していることも危惧されます。このため、防災・減災に関する知識や心得などを普及啓発するとともに、災害時には、住民同士が国籍にかかわらずお互いに助け合えるような地域づくりに取り組む必要があります。

そこで、本県では、地震や台風、大雨に対する防災・減災についての知識や心得、災害時に役立つ情報などを掲載した「外国人住民のための防災ガイドブック」を、やさしい日本語と、英語や中国語、韓国語で作成し、外国人技能実習生に生活・防災講習会などで配布し、活用していただくとともに、外国人住民と地域住民とが一緒に炊き出しや地震を体験できるイベントを開催しています。今後は、このガイドブックをさらに多言語化するほか、防災をテーマとするイベントの開催を増やしていくこととしています。

香川県では、「かがわ多文化共生推進プラン」に沿って、このプランの基本理念である外国人住民と日本人住民が、互いの文化や生活習慣などを尊重し、共に生き生きと安全・安心で豊かな生活を営むことができる社会の実現を目指して、各種施策を推進しているところであり、引き続き、市町や教育委員会、国際交流団体と連携しながら、積極的に取り組んでまいります。